

新型コロナ「夏に一定の感染拡大の可能性」 林官房長官

7/12(金)テレ朝ニュース



全国で新型コロナウイルスの感染者が緩やかに増加するなか、林官房長官は「夏の間一定の感染拡大が生じる可能性がある」との認識を示しました。

林官房長官

「政府としては国民の皆様に対しまして、せきエチケットや手指の消毒等の感染対策を周知しておりまして、引き続き先々の感染動向を見

据えながら適切な感染対策に努めております」

広島県では、7月1日からの1週間で1医療機関あたりの平均感染者数が6.1人となり、5月以降、緩やかに増加しています。

今月11日には住民への注意喚起を通じ、医療への負荷を軽減するために広島県独自の注意報を初めて発令しました。

林長官は「医療の逼迫（ひっぱく）などの問題は生じていない」としたうえで、状況を注視していく考えを示しました。

一方、全国の患者数も緩やかな増加傾向にあることから「過去の状況を踏まえると夏の間一定の感染拡大が生じる可能性がある」と延べ、感染対策に努めるように呼び掛けました。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/39075b5d9250326c634dc0abe63c4b962ddc5b2f>

厚生労働省によりますと、1日から7日までの1週間に全国の定点医療機関から報告された新型コロナウイルスの感染者数は、1医療機関あたり8.07人で、前の週のおよそ1.39倍と大きく増加しました。9週連続の増加となり、鹿児島県と沖縄県では、1医療機関あたりの感染者数が20人をこえる状況です。厚労省は、「全都道府県で増加がみられた。夏場に感染が拡大する傾向があるため、感染症対策に取り組んでほしい」としています。

【感染症ニュース】夏の流行は火がついた？ 新型コロナ定点報告数が前週の1.25倍に急増 医師「全国的に流行拡大」

2024.07.11 感染症予防接種ナビ



厚生労働省が2024年7月5日に発表した令和6年第26週(6/24-30)の「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の発生状況について」によると、全国の定点当たり報告数は5.79。前週と比較すると1.25倍となり、急激に増加しています。4月の終わりを底に、8週連続で増加しています。

沖縄は高水準で流行が継続。鹿児島、熊本、宮崎、佐賀など九州で流行拡大

都道府県別の定点当たり報告数では沖縄は29.91で、30に迫る勢いです。そのほか鹿児島15.42、熊本12.21、宮崎11.78、佐賀11.26で九州地方が多くなっています。この先、新型コロナウイルス感染症は全国的な流行に広がっていくのでしょうか。

◆感染症に詳しい医師は…

感染症に詳しい大阪府済生会中津病院院長補佐感染管理室室長の安井良則医師は、「新型コロナウイルス感染症の再流行の火がついたと見ています。昨年も夏に流行しましたが、今年は特に空梅雨(からつゆ)傾向にある地域で気温が高い状態が続いており、昨年の夏と同じく新型コロナウイルスが広がりやすい気候になっていることが原因になっているかもしれません。特に暑さが続いている沖縄や九州では患者が多く、本格的な夏を迎えるこれから、全国的に流行が拡大していく可能性もあります」と語っています。

◆新型コロナウイルス感染症とは？

新型コロナウイルスは感染者の口や鼻から、咳・くしゃみ・会話のときに排出されるウイルスを含む飛沫またはエアロゾルと呼ばれるさらに小さな水分を含んだ状態の粒子を吸入するか、感染者の目や鼻、口に直接に接触することにより感染します。一般的には1メートル以内に近接した環境において感染しますが、エアロゾルは1メートルを超えて空気中にとどまりうることから、長時間滞在しがちな、換気が不十分で混雑した室内では、感染が拡大するリスクがあることが知られています。感染すると2~7日の潜伏期間のあと、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、咳といった上気道症状に加え、倦怠感・発熱・筋肉痛・頭痛といった全身症状が生じることが多く、その症状はインフルエンザとよく似ています。オミクロン株が主流となった現在は、嗅覚・味覚障害の症状は減少しています。軽症の場合は1週間以内に症状が軽快することが多い一方、発症から3か月を経過した時点で何らかの症状が2か月以上持続し、他の疾患による症状として説明がつかない場合には、罹患後症状(後遺症)の可能性を考える必要があります。

◆新たな変異株 KP.3 が急増

国立感染症研究所感染症疫学センターでは、新型コロナウイルスに関するデータを発表していますが、第18から21週にかけての調査では、その期間に検出した新型コロナウイルスはBA.2系統が75.37%。特にKP.3という株が54.48%と最も多くなりました。KP.3はオミクロン株の一種ですが、ワクチンや感染による中和抗体による免疫からの逃避の可能性

が高く、以前感染したことがある人でも、再感染しやすいとされています。一方、症状については過去に流行した BA2.86 などとそれほど変わらないと見られています。

◆安井医師の勤務する病院では…

では、実際の医療現場は今、どの様になっているのでしょうか。安井医師は勤務する大阪の病院の状況をこのように話しています。「当院には連日複数の患者が入院してきて、流行の拡大を感じています。多くは 80 代、90 代ですが、100 歳以上も入院しています。高齢の方は家庭内感染や高齢者施設やデイケアセンターなどで感染しているケースが多いのではないかと思います。このような施設では、お見舞いに来る方など外からウイルスが持ち込まれるケースも否定できません。現在、流行している新型コロナの症状は、そこまで重くないと考えている方もいらっしゃいますが、それでも、50 代、40 代と言った比較的若い年齢層の方が肺炎などを起こし、中には、挿管が必要なケースもあります。また、リハビリ施設でのクラスター発生も耳にします。これから 1 か月は新型コロナの感染に注意する必要があると感じています。」

◆高齢者などに接する時は、マスクなど感染対策を

一方、そのリハビリ施設でスタッフの感染は今のところないそうです。医師や看護師・スタッフなどは、入所の方と接する時には必ずマスクや手指消毒などの感染対策を十分に行っているため、クラスターが発生した場合でも感染するケースはほとんどないとのこと。暑い夏で、普段からマスクを着用するのは、熱中症を防ぐためにも無理があると思いますが、高齢者など感染した場合のリスクが高い方と接する時などは、マスクなど感染対策をお願いします。